

# 100-294

## 問題文

アルツハイマー型認知症の病因・病態として、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 脳内コリン作動性神経系の著しい亢進を認める。
2. 前頭葉を中心として全般的脳萎縮を認める。
3. アミロイドβオリゴマーが、神経細胞周囲に蓄積する。
4. 大脳皮質を中心に、老人斑と神経原線維変化を認める。
5. 中核症状として徘徊がある。

---

## 解答

問294：1問295：3, 4

## 解説

### 問294

ドネペジルの初回投与量は、3 mg です。目的は、消化器系副作用の発現を抑えることです。有効容量ではないため原則として、1～2週間を超えて使用しないよう注意が必要です。本問症例では、初回投薬にもかかわらずドネペジル 5 mg が投与されています。よって、疑義照会を行うことが適切であると考えられます。

以上より、正解は 1 です。

ちなみにレバミピドは、消化器系副作用軽減を目的として投与されています。

### 問295

選択肢 1 ですが

アルツハイマー型認知症においては、コリン作動性神経の著しい低下が認められます。亢進では、ありません。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 ですが

アルツハイマー型認知症では、主に側頭葉（海馬を含む部位）や頭頂葉を中心に脳萎縮が認められます。前頭葉を中心としてでは、ありません。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3,4 は、正しい選択肢です。

選択肢 5 ですが

アルツハイマー型認知症の中核症状は、記憶障害、見当識障害などです。徘徊では、ありません。（ちなみに、見当識障害とは、現在の時刻や、自分の居場所の把握等に関する障害です。）よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 3,4 です。